



岡本可亭編纂

處世の道は長せんと欲し書冊の必要を知る人の是より以下は掲載する廣告を見よ書冊の世を裨益する尤も信切なる好友なり處世の道は長せんと欲し書冊の必要を知る人の以下掲載する廣告を見よ!

女寶

全壹冊 正價金四拾錢

本書は女子一代之教育技藝音樂脩身等網羅して余す所なく女子處世之要典なり
輒近文化之風潮は随ひ世は教育を頌揚する者の尤も女子の教育は注意する所なり
女子其人の教育如何の其兒子は波及し清淨無垢の幼童をして或は賢たらしめ
或は愚たらしむは是れ女子教育の忽かせますべからざる所以なり苟も善良の慈母
たらん者の一續の勞をおしむ勿れ

香夢樓主人編

訂正
增補

通俗男女造化機論

全壹冊 正價三拾五錢

男長ずるゝ至て女を娶り女長じて男ゝ嫁し始て夫妻あり相交りて以て子孫を蕃殖し血脉を永遠ゝ傳ふ是れ造化之妙案ゝして人生之大道あり然るゝ男女やゝ長ずるゝ及んでハ陽氣勃々爲ゝ大道を忘れ只ゝ淫樂を事とし社會の秩序を亂し自己が一身を誤る者多し豈ゝ慨嘆ゝ堪さらんや本書ハ造化生殖の原因より其妙用得失を説き而して少年婦女子が淫事多情より來す處の害を述べ以て身を立道を行ふの理由を詳述せし者なれば熟讀含味し家を興し國を富まし永く子孫の光榮を計れ

涙香小史譯述

指

環

全一冊 正價金二十錢

嚇々として美人の軟手は輝ける者の指環なり美人能く指環を以て艶男を迷はし
艶男之を以て美婦を誘ふ嗚呼指環の月下氷人なり本書に至ては即ち然らず此可
愛的なる指環を以て忌むべく怖るべき盜賊の規約を結び世人の耳目を暗ませし
犯罪の始末を書綴りし者にして原著始て佛京巴里まで發賣せし時喝采を博せし
事他又比類なく遂は傑作の中は算へられたる小説なり頃日涙香小史之を譯して
都新聞に掲載し世評高かりしを今度一冊子と爲したる者なれば其面白き事の弊
堂の贅言を待たず諸君既は知り給はん

三遊亭圓朝口述 酒井昇造筆記

安中
草三
後閑榛名梅ヶ香

全一冊 正價金三十五錢

三遊亭圓朝翁の口述に係る著書一度發售せし以來翁の名忽ち世に發揚し爾來活版に付する者實に數十種に至れり然れども中より就て尤も有名なる者此榛名梅ヶ香の右に出来るものなし實に圓朝翁が第一の著書なり卷中大意を云へば文化年中上州安中驛に義俠草三郎ある者あり親の爲に賊を爲し一度悔悟したるを再度主難を救はんと欲して大賊をなす其間幾多の變遷或は險を犯して危人を援け或は白刃を踏で不辜を救ふ等義俠の赤心痛むべきあり悲しむべきあり翁が人情の表裏を語り得るの得意なるを有名ある速記者酒井君が艶筆に綴れる者なれば一度此書を経かば正に寢食を忘るゝの思ひあり請ふ速に妙味を味ひ給へ

凡亭素人譚

探偵譚

全壹冊 正價金貳拾錢

本書の佛國有名なる探偵小説家の健筆に成れる者數種を集め譯述を以て名ある凡亭素人が艶筆に譯述せし者にして玄妙なる探偵の運用累々として幅港せり抑も探偵なる者の人の未だ見ざる所未だ知らざる所を暴露し奸邪の輩をして高枕安眠せしめず何れ依て斯の如きを得るや甚だ怪むべしと雖も探偵の探偵の原則あり其應用は依て功を奏し惡漢を懲し良民を救ふ嗚呼探偵なるかな探偵なるかな探偵の獨り罪人を縛するの術のみとなさず平素己が處世に應用せば又大に利する處あり請ふ愛覽を給へ

眞
ツ
暗

全壹冊 正價金貳拾錢

眞ッ暗とい何と曰く事犯罪の顛末なり讀終るまで誰人の所爲なるやを示さず讀者をして暗黒の中へ徘徊せしむ故に其名あり眞暗を讀終る前より早く既に其本末を觀破し得る者の實は卓眼にして暗に物を見る梟の如き眼光ある人と云ふべし唯に解し難きを主意としたれども深く考案を廻らせば益々解し難し實に解し難き又有らず存外解し易きなり存外暗黒は有ざるやも斗られず此トンチル小説こそ信に探偵小説の妙味を盡したる者あらざらんや讀者よ試み茲に暗黒を探れ暗黒の中より隨分面白き事の多き者なり

丸亭素人譚

美人の獄

全壹冊 正價金貳拾錢

花は嵐月は叢雲まよひならぬが浮世なれ春は花咲く彌生頃花見遊山よさんざめ
く乙女は引替へ裏店に細き煙りの手内職不幸をかこつ處女あり夏の涼しき川風
を袂に受けて船遊び暑を知らぬ風流男あれば焼付如き炎大に笠をも冠らす車挽
き玉なす汗を拭く暇も中くつらき世渡り涙呑込赤貧者秋の月見は冬の雪何れ
をろかり無かりける實は世の態を是非なけれ今此ふみの主しある美人雪子も思
わぬ罪を身は受けて乾すよしもなき濡衣軟弱き花の姿もて荒き囚屋の詫住居無
き名を人よ立られて云囃さるゝ憂さつらさ其事の葉の浮沈みを飽なる筆よもの
せられたる尤も可憐なる冊子あり

涙香小史譯

銀行
奇談

大

盜

賊

全壹冊

正價金拾貳錢

本書ハ佛京巴里府にて有名なる金満家ホーフル銀行にて三拾五萬圓の大金を何者かニ盜取せられ其形跡を探るゝ苦しみたるを千變萬化の奇術を以て當時巴里にて有名なる探偵レコークが探り得たる顛末として譯述ニ工なる涙香黒岩君が翻譯し新聞紙上へ掲載し非常ニ江湖の喝采を博せし新案小説なりしを今度弊店ニ於て一小冊子となしたり請ふ愛讀あらん事を

懷中義太夫

倭文範合本

全一冊 正價十八錢

卷中目錄

- 菅原寺子屋の段●兜軍記琴責の段●朝顔宿屋の段●三代記三浦別の段●先代
- 萩政岡忠義の段●太功記尼ヶ崎の段●廿四孝十種香の段●一ノ谷熊谷陣屋の段
- 安達原袖萩祭文の段●お染久松野崎村の段●白石嘶新吉原の段●佐倉惣五住
- 家の段●女舞衣三勝酒屋の段●蝶花形小坂部館の段●浦里時次郎吉原揚屋の段
- 忠臣藏山科の段●加々見山長局の段●鳴門順禮歌の段●御所櫻辨慶上使の段
- 膝栗毛赤坂並木の段●三十三間堂平太郎住家の段●お俊傳兵衛堀川の段●梅
- 川忠兵衛新口村の段●腰越狀泉三郎館の段●昔八丈城木屋の段●玉藻前道春館
- の段●國姓爺樓門の段●伊賀越沼津の段●妹背山四段目の切●千本櫻すし屋の
- 段●千両幟猪名川内の段●躰仇討瀧の段●鈴鹿合戦平治住家の段●時雨炬燵紙
- 屋の段●盛衰記逆櫓の段●お染久松質屋の段●二度目寺岡切腹の段●矢口渡舟
- 場の段●一ノ谷須磨浦の段●近江源氏小四郎恩愛の段

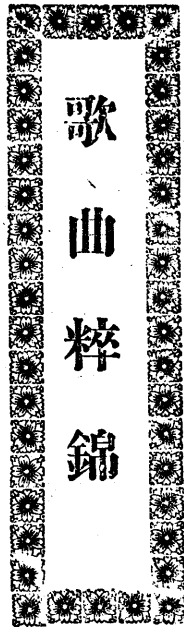
懷中卷太夫

續倭文範合本

全壹冊 正價金拾四錢

卷中目錄

- 伊賀織間崎の段 ●彦山六助内の段 ●桂川帶屋の舞 ●忠臣藏六段目 ●日吉丸三
 の切の段 ●累土橋の段 ●加々見山草履打の段 ●忠臣藏七段目 ●朝顔濱松の段 ●
 菅原車曳の段 ●廿四孝勘助住家の段 ●矢口八郎物語の段 ●覺仇討餞別の段 ●守
 護城正清本城の段 ●盛衰記源太勘當の段 ●累殖生村の段 ●姫小松鳥物語の段 ●
 彦山須磨浦の段 ●花上野志度寺の段 ●千本櫻茶見世の段 ●忠臣藏三段目 ●忠臣
 藏五段目 ●伊賀越六ツ目口 ●覺仇討九の切 ●太功記本能寺合戦 ●合邦辻内の段
 ●岸姫松朝比奈上使 ●蘆屋道滿狐別の段 ●安達宗任物語の段 ●三日太平記松下
 住家 ●苅萱山の段



歌
曲
粹
錦

全壹册 正價金拾四錢

本書ハ歌曲類一切を網羅す曰く端唄曰く都々逸曰く清
元曰く常盤津曰く義太夫曰く新内曰く二上り新内曰く
富本曰く一中曰く園八曰く琴歌曰く上方歌曰く清曲曰
く小謡総て余すなし苟も通客となり粹士たらんと欲す
る者ハ一本を座右ニ於て愛覽を給ヘバ幸甚の至リヌ不

鑑

大日本六法全書

全壹冊 正價金五拾錢

今や帝國の法典の完成せり吾人が希望しつゝ在りし新法典は發布せられたり吾人國民たる者必讀せざるを得ざるは弊堂が贅言を要せざる所なり雖然新法典や大冊よして悉く暗射する事甚だ至難かり依て常よ一冊を座右に備へて閲覽の便を取ざるを得ず實に弊堂が此書を發售する所以よして單に諸君閲覽の便を計り無用の註釋を付し徒に冊子をして冗長ならしむる等の事なく正文は謗訓し尤も價格を低廉ならしむ請ふ陸續御注文あらん事を謹白

名作三十六佳撰

各一部 正價拾錢宛

本書ハ古來傑作の名ある義太夫丸本よして月々漸次出版する者なり其既成
 目錄の左よ

●繪本	太功記	全一冊
●生寫	朝顔日記	全一冊
●假名手	本忠臣藏	全一冊
●伽羅	先代萩	全一冊
●武田信玄 長尾謙信	本朝廿四孝	全一冊
●菅原傳	授手習鑑	全一冊
●十三鐘 絹懸柳	妹脊山婦女庭訓	全一冊

次

目

目

● 遊櫓松平がな盛衰記 全一冊

● 奥州安達原 全一冊

● 一乃谷嫩軍記 全一冊

● 壇浦兜軍記 全一冊

● 蝶花形名歌島臺 全一冊

● 彦山權現誓助劔 全一冊

● 伊賀越道中雙六 全一冊

● 三日太平記 全一冊

● 太平記忠臣講釋 全一冊

● 金比羅花の上野譽石碑 全一冊

● 利生記 全一冊

● 北條時頼記 全一冊

● 國姓爺合戰 全一冊

次

殘口道士著

艷道通鑑

全壹冊 正價金貳拾錢

和文之妙手殘口道士が艷麗無比なる特筆を振わたる書にして享保年間の昔し
も在て能く世態人情を寫し出したる書なれば文學の資として見べき者巨多なり
其流暢なる恰も花の如し繙ひて以て其眞價を探れ

香夢樓主人編

商人立志編

全一冊 正價三十五錢

此書の吾日本は英商ありと其名を万里の異境まで博したる近時有名の豪商廿
有餘人を撰み加之商買必用の條々を掲げ而して偉業成功の美譽を求むる要路を
説明せし書なれば商買有志の諸君争つて購讀せられ以て常坐側は置き偉業
人々の思想は注目なさは利を益するの云も更なり吾全國の勿論遠く歐米諸國商
人の實況及び商買就て進退舉動併せて得失富饒を求め得るに足る商家六箱三畧
と言つ可き良典なり請ふ四方の君方試みよ朗讀せられんことを

丸亭素人譯

黑闇鬼

全一冊 正價廿五錢

本書の佛國有名なる大家の探偵談なり、猛悪なる大強賊奸佞なる大罪人かゝる不敵の曲者を目も見へず手も捕へ得ざる黒闇中より狩出す探偵吏を用ひず離れ難く、棄難き人情を以て繋ぎ留たる關係人の手は一任し遂は惡鬼も天誅を加ふる最も高尙として尤も奇偉なる書なり

井原西鶴著

文反古

全一冊 定價十二錢

井原西鶴著

小夜嵐物語

上中下三冊

輓近稗史小説の流行實は其隆盛を極め著譯醜刻今の殆んど其數を洩さずと雖も惜むべしや、文章の高尙優美なる者に至りては曉天の星光と一般の觀なき能はず、蓋し本書の如き其隨一なる者か、井原西鶴氏の貞享元祿年間、在て浮世草子体の一派を開き、文林の泰斗と仰かれしも一時其名隠埋して顯れず、明治文化駁々として進み、今や元祿の傑作、明治の文壇に登らんとす、江湖の諸君書を寄せ言を傳へて、本書の開版を促かざる者、日よ其幾十を知らず、依て今般活版に附して發市するに至れり、伏て希くは世間獲利の斷篇零冊と同視せず、續々愛覽以て高妙の文章を窺ひ、且文華の眞面目を知らるれば幸甚

- 小町奴 桃水痴史 著
- 怪談乳房榎 三遊亭圓朝口述
- 綠林門の松竹 三遊亭圓朝口述
- 西京土產 嶮之高倉 松林伯圓口述
- 因果 果小町 村井吉瓶口述
- 倭歌敷島譚 春錦亭柳櫻口述
- 仇娘好八丈 春錦亭柳櫻口述
- 女權 文明の花 杉山蓋世 著
- 美談 孝子之血涙 大久保夢遊 著
- 復讐 珠簾若葉艷 川上鼠文 著
- 日本忠臣傳 香夢樓主人 著
- 滑稽十二月月 瘦々亭骨皮道人 著

● 滑稽狂進怪 瘦々亭骨皮道人著

● おとけ新聞 瘦々亭骨皮道人著

● 行成放題 樂雅記 瘦々亭骨皮道人著

● 面白誌 瘦々亭骨皮道人著

● 滑稽用文章 瘦々亭骨皮道人著

● 落葉の掃寄 末廣鉄腸居士著

● 海王丸 桃水痴史著

● 葉山繁山 桃水痴史著

● 業平竹 桃水痴史著

● 精神機關 嫁君情史著

● 春ノ一枝 桃水痴史著